

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

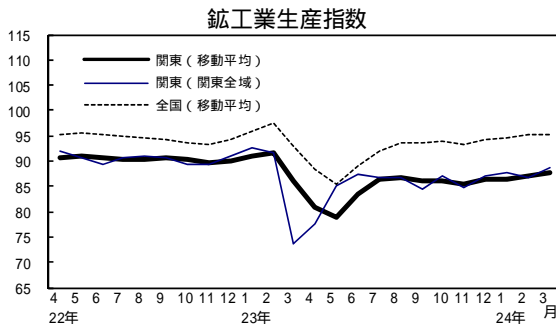
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	足踏み状態	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
個人消費	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は、東北の被災地において震災復旧工事等で利用される普通トラックの需要が増加したこと等から増加している。一般機械は、薄型テレビの不調によりフラットパネルディスプレイ製造装置が低下に寄与したこと等から減少している。電気機械は、新生活向けの小型電気冷蔵庫が増加に寄与したこと等から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

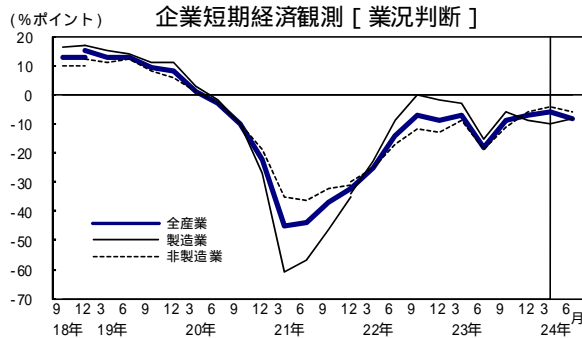
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	15.2	10.3	6.7	3.4	56.2
化学	13.4	0.7			
一般機械	13.2	0.1	3.8	2.1	6.8
電気機械	7.8	3.4	3.8	1.4	6.3
食品・たばこ	7.1	0.1			
鉱工業	100.0	0.3	1.6	0.7	11.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

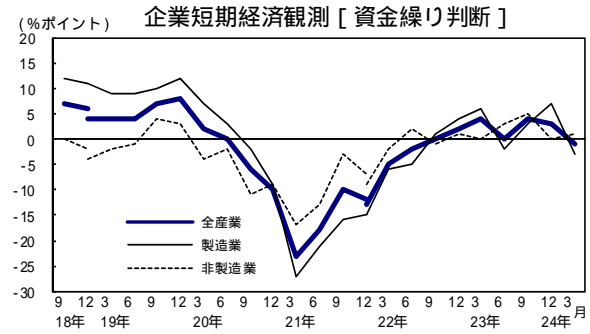
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。

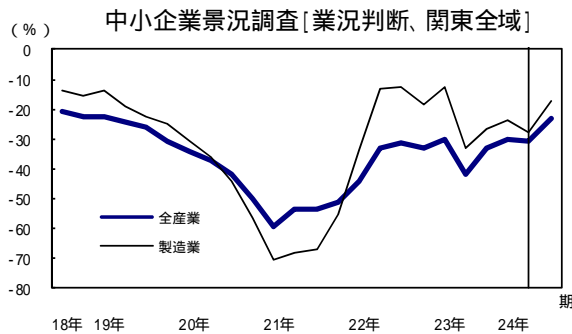
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

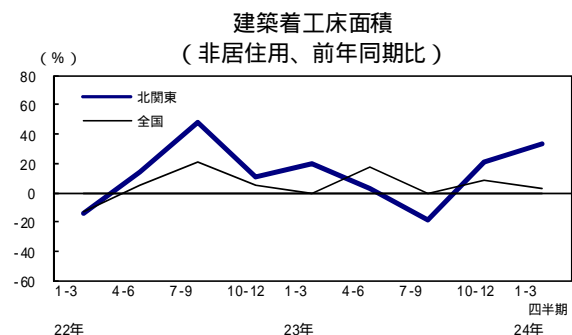
「今年も電力不足等で原子力発電所の稼働はしないということから、省エネ家電等が見直され、扇風機等の荷動きが多くなっている。通常であれば、関東以外の遠方、九州、関西、東北等は協力会社等の上り車を利用して帰り車の対応をしているが、現状は車両が少なく、自車を使って対応している。コスト高にもつながっており、厳しい状況である(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度見込
全産業	15.7 (2.8)	3.2
製造業	31.4 (3.7)	1.9
非製造業	11.2 (0.3)	6.6

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額

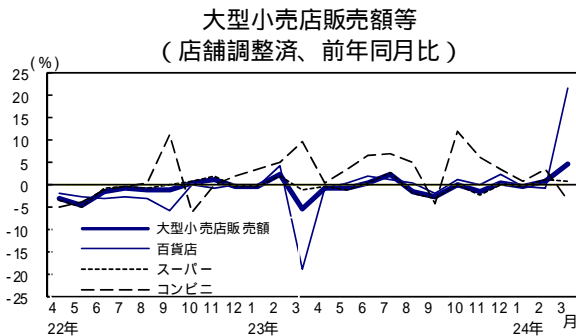
大型小売店販売額は、前年同期比で1.8%増、前期比で0.6%減となった。

百貨店は、1月は、主力の衣料品が冬物セールにより好調だったものの、その他の商品が全体的に低調だったことから前年を下回った。2月は、気温低下の影響等により、冬物衣料や防寒アイテムは好調だったが、春物商品が鈍かったことから前年を下回った。3月は、前年の東日本大震災の影響の反動や高額品が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、野菜の高値が続いたことや、節分やバレンタイン関連商品も堅調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「相変わらず節約志向が顕著で、3か月前と比較しても大きな変化は見られない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	0.1	0.5	0.2	1.8
百貨店(*1)	0.6	0.1	1.4	6.5
スーパー(*1)	0.3	0.6	0.6	0.7
大型小売店(*2)	1.8	1.9	2.0	3.2
(季節調整値)(*3)	(2.3)	(0.1)	(0.2)	(0.6)
乗用車(*4)	35.9	21.8	21.4	50.1
(季節調整値)(*4)	(18.4)	(33.7)	(7.4)	(24.5)

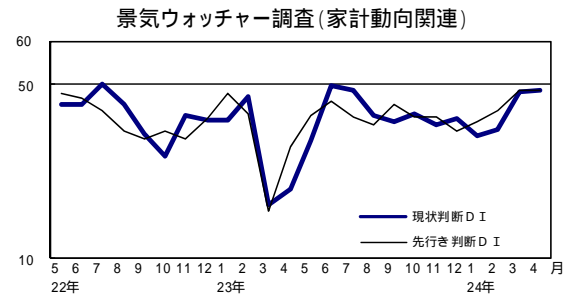
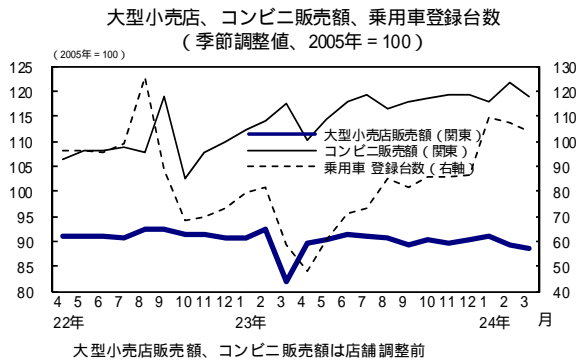
(備考)1.北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、1-3月は速報値

2.北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、1-3月は速報値

3.関東全域、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は新規登録・届出台数

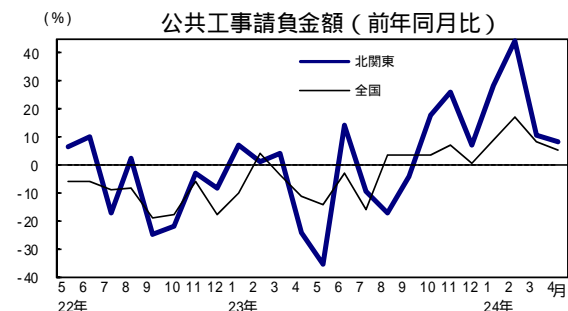
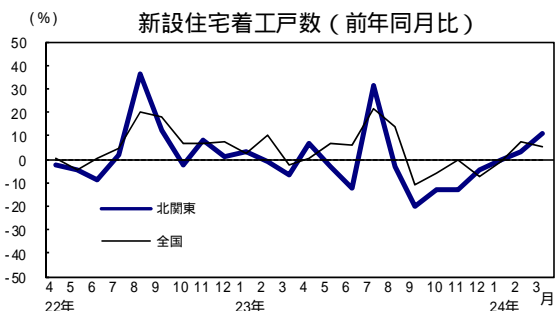
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

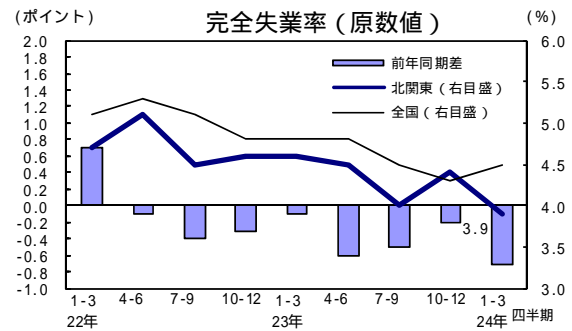
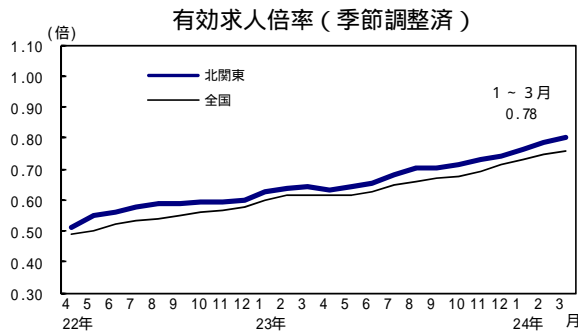


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

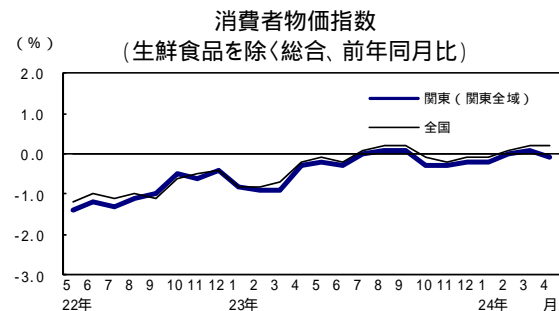
「円安傾向で、輸出産業は想定より利益が出ている（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	4月
倒産件数	185	146	156	159	51
(前年比)	5.1	18.9	8.2	5.9	8.9
負債総額	762	4,701	1,015	396	216
(前年比)	83.7	365.1	89.8	7.7	51.9



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・福島第一原子力発電所の事故による風評被害が依然続いており、海外からの観光客、ビジネス客及び東京からの行楽客の予約がほとんど無くなっている（都市型ホテル）。

<先行き>

- ・新東名高速道路開通などアクセス面の充実や、オンシーズンを迎えることにより、今後の景気は良くなっていく（遊園地）。

